

名づけられた葉

〔教科書14ページ〕

2年 組 番

問1 この詩の種類を次の中から一つ選び記号で答えなさい。

〔 〕

- ア 口語自由詩
- イ 文語自由詩
- ウ 口語定型詩
- エ 文語定型詩

問2 一連三行め「緑の小さな手をひろげ」とありますが、この表現について次の

問いに答えなさい。

- a このように人間でないものを人間にたとえる表現技法のことを何というか答えなさい。
- b この表現で人間にたとえられているものを本文中から五字で抜き出しなさい。

〔 〕

1

問3 二連一〜二行め「わたしも いちまいの葉にすぎないけれど」とありますが、この詩では「わたし」と「ポプラの葉」を対比させています。次の「A」「B」に、わたしとポプラの葉のどちらかを入れ、文を完成させなさい。

〔A〕 はみな同じ名で呼ばれるが

〔B〕 はわたしの名で呼ばれる。

問4 二連七行め「わたしは呼ばれる……朝に夕に」の意味として適切なものを次の中から一つ選び記号で答えなさい。

〔 〕

- ア 朝日と夕日がわたしをわたしの名で呼ぶ。
- イ わたしがわたしの名で呼ばれるのは朝と夕だけである。
- ウ どんなときでもわたしはわたしの名で呼ばれる。
- エ 朝から夕方までの間、わたしはわたしの名でいられる。

名づけられた葉

問5 三連一行め「だからわたし 考えなければならない」について次の問いに答えなさい。

a 私は何を考えなければいけないのか、最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 葉としての成長の仕方や散り方。

イ 自分らしく精いっぱい生きていく方法。

ウ ポプラの葉として散っていくものの気持ち。

エ 「わたし」と「ポプラの葉」の生き方の違い。

b なぜ「わたし」は考えなければならないのか、詩の中から十二字で抜き出しなさい。

問6 三連七行め「どんなに風がつよくとも」とありますが、この風とはわたしにとってどのようなものだと考えられるか答えなさい。

問7 この詩から読み取れる作者の思いとして当てはまるものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の名を持たないポプラの葉に同情している。

イ ポプラの葉と自分を比較し、自分に名があることに感謝している。

ウ 人間の歴史の中にある自分に小ささを感じ、歴史の偉大さに敬意を表している。

エ 自分だけの名があるのだから自分らしく生きていこうと考えている。

★問8 あなたがこの詩を朗読するとしたら、どのように読みますか。一連／三連のなかから連を一つ選び、そこでの読み方について次の条件にしたがって書きなさい。

条件1 詩の内容をふまえて強調したい部分や読む速さなど具体的に描くこと。

条件2 五十字以上八十字以内で書くこと。

